

第64回宮崎県学校体育研究発表大会

特別支援学校部会

- 1 研究主題 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日程・会場

10月27日(金)	特別支援学校部会	8:55	9:40	10:40	11:40	13:30	14:30	15:50
		8:40	9:15	10:30	11:30	12:30	14:20	15:40
		受付	開会行事 視点説明 (20分)	授業発表Ⅱ (各部会) (50分)	授業発表Ⅰ (つながり) (50分)	授業研究 (50分)	昼休準備 食憩備	研究協議 研究発表 (50分)
会場：県立日南くろしお支援学校								

① 授業発表

	学 年	単 元	発 表 者
I (つながり)	高等部	球 技 (バレーボール)	県立日南くろしお支援学校 教諭 長友啓輔
II (地区)	中学部	球 技 (くろしおバレーボール)	県立日南くろしお支援学校 教諭 古小路和隆

② 研究発表

活動報告及び研究発表題目	発 表 者
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方～ICTの活用を通して子供たちの力を引き出す授業づくりをめざして～	県立小林こすもす支援学校 教諭 森 玲子

③ 授業発表・研究発表協議

役 職 名	氏 名
指導助言者	日本体育大学体育学部 准教授 村井敬太郎
	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事 早崎達也
司 会 者	県立延岡しろやま支援学校 教諭 佐藤賢司
記 録 者	県立延岡しろやま支援学校 教諭 伊東寿晃
	県立日南くろしお支援学校 教諭 清美里
進 行	県立日南くろしお支援学校 教諭 的野美穂子

④ 授業研究会

内 容	担 当 者
球技(ネット型) 思考力、判断力、表現力等の育成に向けた思考ツールの作成と評価	県立都城きりしま支援学校 教諭 笠野武志

大会の記録

特別支援学校部会

I 授業 I : つながりの授業 (高等部)

ア 事前研究会からの変化

- ボールを追いかけて窓にぶつかり、怪我をしてしまう生徒がいる可能性から、窓際にマットを設置し、衝撃を緩和し、怪我を防ぐ措置をとった。
- アプリ「Key note」を使用した学習カードから、Google のスプレッドシートの学習カードに変更したことで、振り返りの部分をプルダウン式で記入することができるようになり、時間の短縮を図ることができた。
- 事前研究会では、ネットを設置せずのウォーミングアップであったが、本番ではネットを設置し、よりゲームを意識しながらウォーミングアップに取り組むことができるようにした。

イ 視点に対する最終的な成果

- (1) 学習内容系統表の作成は適切で、効果的な活用がなされていたか。
 - 学習内容系統表（思考力、判断力、表現力等編）を作成することで、生徒一人一人に応じた目標を設定し、それに対する評価がしやすくなった。
 - 「思考力、判断力、表現力等」について、4つの領域をバランスよく学習できるように授業を組み立てやすくなった。
 - 「知識及び技能」や「学びに向かう力、人間性等」との関わりを意識しながら、単元計画を作成することができた。
- (2) 授業の目標を達成するために、効率的で効果的な思考力等をサポートする手立てはできていたか。
 - ICT 機器と具体物の教材を、生徒の実態や授業の内容、活用場面等で使い分けることで、教師主導から生徒主導での話し合いが行われるようになった。
 - 集団の中で意見を述べたり、判断したりすることが苦手な生徒でも、「思考したこと」や「判断したこと」を「表現すること」ができる環境の設定を行うことができた。また、思考力等をサポートする手立てを意識しながら、「思考したこと」や「判断したこと」を「表現しよう」とする姿がミニゲームで見ることができた。
 - 「思考力、判断力、表現力等」を話し合いの場面だけではなく、練習やミニゲーム時の様子から評価をすることができるようになった。

■ 授業の様子



ウォーミングアップ①
～ バレーボールの一連の動き ～



ウォーミングアップ②
～ ボールを持たない時の動き ～



作戦タイム
～ チームボード&ポジションカードの活用 ～



ゲームの様子
～ 仲間からのパスを呼んでいる ～



ミニゲームの様子
～ 3回目をネットに近い位置から返球しようとしている ～



振り返りの様子
～ チームの良かった点について ～

2 授業Ⅱ：各部会の授業（中学部）

ア 事前研究会からの変化

- 得点が続くと同じ生徒がサーブを打ち続けることになるため、3回連続得点になったらローテーションを行うようにルールの変更を行った。
- 前時の振り返りで、前時に撮影した映像を各チーム30秒程度流し、前時の活動の想起を図った。
- 試合後の振り返りの時間を十分に確保できるように、試合時間を短くした。

イ 視点に対する最終的な成果

(1) 学習内容系統表の作成は適切で、効果的な活用がなされていたか。

※ 高等部と同様

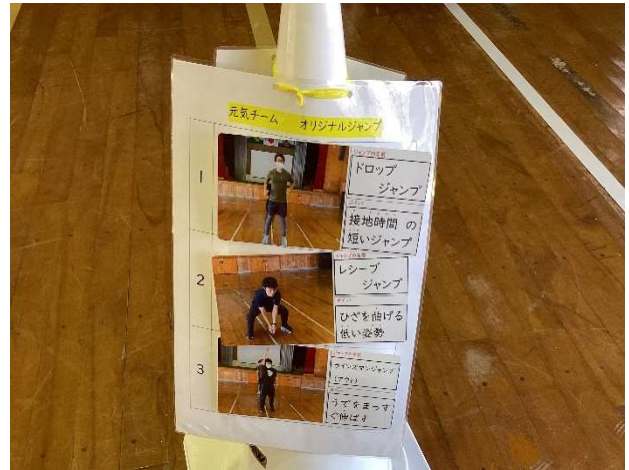
(2) 授業の目標を達成するために、効率的で効果的な思考力等をサポートする手立てはできていたか。

- 目標設定や練習選択で、アプリ「Pages」を使用したシートだけでなく、掲示用のシートがあることで、それぞれのチームが見やすいシートで確認をして、練習内容を選ぶことができた。
- 各目標とその目標に付随する技能ポイントを設定し、カードにして提示したことで、振り返りの場面で、「できた」、「できなかった」を言葉や拳手、カードの指さしなどの、自分ができる方法で伝える姿が増えた。
- チーム目標を設定し、練習やミニゲームに取り組んだことで、声出しや相手が受け取りやすい山なりのパスを意識する姿が見られた。また、自分たちのプレーを振り返り、新しい目標を設定することができた。

■ 授業の様子



ウォーミングアップ①
～ リズムジャンプの様子 ～



ウォーミングアップ②
～ バレーの動きを取り入れたジャンプ ～



チーム目標の確認
～ チームボード&目標カードの活用 ～



ミニゲーム
～ アタックをする様子 ～



試合の振り返り
～ 練習ボードから練習選択をする様子 ～



チームのまとめ
～ 試合でできたことを発表する様子 ～

R5 特別支援学校部会 授業研究会（ワークショップ型）

【特別支援学校部会：球技 ネット型 バレーボール】

1 日程 14：30～15：40（70分）

時間	内容	授業者	助言者
14：30	5分 ワークショップ型 授業研究の説明	着席	着席
14：35～ 15：15	40分 ワークショップ型 授業研究 ★ 特別支援学校部会公開授業 「球技 ネット型：バレーボール」 ① グループで各自の分析を述べながら付箋を台紙に貼っていく。 ② グループで付箋を整理して、見出しを付けて意見を整理する。	着席	周回
15：15～	15分 各グループの代表者が、整理した内容を説明する。各グループ5分	着席	着席
15：30～ 15：40	10分 指導助言 ・日本体育大学体育学部 村井敬太郎 准教授	着席	着席

2 授業参観の視点

【特別支援学校部会授業】 授業発表Ⅰ「高等部：球技 ネット型：バレーボール」
授業発表Ⅱ「中学部：球技 ネット型：くろしおバレーボール」

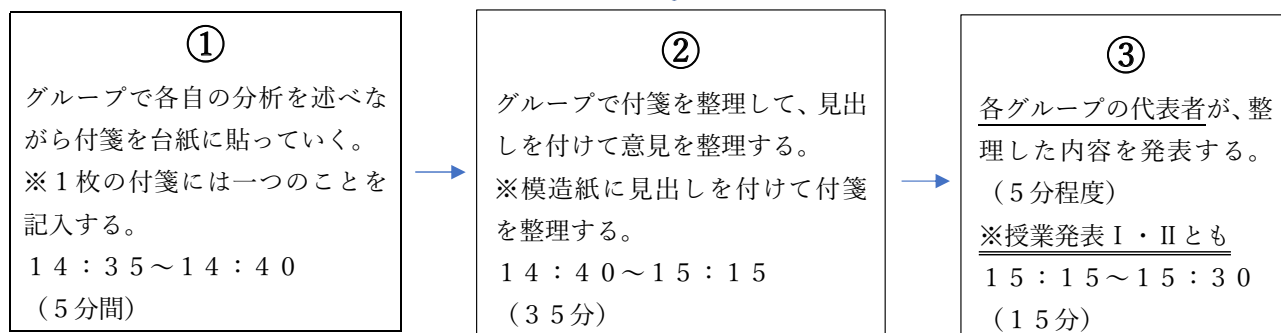
①指導と評価の一体：「学習内容系統表」の作成は、思考力、判断力、表現力等の評価について、適切で効果的な活用がなされていたか。

②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善：授業の目標を達成するために、効果的な思考ツールの活用ができていたか。

3 ワークショップの進め方（研究授業Ⅰ・Ⅱとも行う。）

○グループに分かれる。（A～E）※場所については、裏面にて

○付箋紙へ授業参観の視点で記入をする。（主観を避け、事実を客観的に表現する。）
■青色の付箋・・・『生徒の良かった点』『教師の良かった点』
■赤色の付箋・・・『生徒の改善点』『教師の改善点』 → 解決策まで記入する。
■緑色の付箋・・・『質問したい点』『疑問点』



・1枚の付箋には一つのことを記入する。 ・簡潔に大きな文字で記入する。
・気づいたことは些細なことも含めたくさん書く。

授業研究会の記録

I 授業者振り返り

(1) 【授業Ⅰ：つながりのある授業(高等部)】 長友 啓輔 教諭

- 集団や人前に出ることが苦手な生徒がいる中、雰囲気にもまれることなく、いつも以上に頑張る生徒が多く見られ、活気のある授業を展開することができた。
- 仲間で対話しながら、ポジションや作戦を工夫する姿が見られた。
- 「今日の課題」を意識しながら、思考したことをプレーで表現しようとする生徒が見られた。
- いつもと違う雰囲気の中、気持ちが舞い上がっている生徒も見られたため、もう少しメリハリをつけてあげる必要があった。
- 仲間の失敗に対して、不機嫌になってしまう生徒が見られた。これまで、チームスポーツである意識付けを行ってきたが、意識を変えることが難しかった。
- 運動中の様子だけではなく、仲間を応援している時の様子も、評価できるようにすることが大切であると感じた。

(2) 【授業Ⅱ：各部会の授業(中学部)】 古小路 和隆 教諭

- 生徒たちは声を出して、楽しく授業に取り組んでくれた。
- キャプテンを中心に声を掛け合い、振り返りを行うことができた。
- 時間がかかる生徒もいたが、自分のことをしっかり振り返ることができていた。
- 振り返りの時間が不十分で時間内に練習選択をできなかったチームがあった。
- 話し合いの場面では、思考・判断・表現の評価規準を作成し活用することができたが、練習やゲームの様子からも評価できるようにしていくべきであった。
- 本校では、通常のバレーボールのルールで行う難しさがあった。そのため、ルールを工夫し、独自のくろしおバレーボールを行った。

2 質疑応答内容

(1) 【授業Ⅰ：つながりのある授業（高等部）】

質問点	回答
ポジショニングの練習はどの時間に行ったのか。	ポジショニングの練習は行わずに、ミニゲームの際に生徒たちがいろいろなパターンのポジショニングをやりながら覚え、考えて決めるようにした。
ウォーミングアップ①は、ネットとの距離感を掴むためにも、途中で前後を入れ替えた方がよいと感じたが。	ウォーミングアップ中に入れ替えを行うと、時間のロスや生徒が混乱する可能性があると考えたため。前後については、毎時間ごとに入れ替えをするようにして対応している。
ゲーム中のトスが低いと感じたが、個人技能については、どこかで補う工夫をしているのか。	個人技能については、単元の序盤に行った。中盤から終盤にかけては、チームとして練習やゲームを行うようにしていたが、やはりどこかで、個人技能を再度練習する時間を設けた方がよかったと感じる。
バレーボールの単元を通して、はじめと現在で生徒たちが変化したところはあるか。	個でバレーボールに取り組む姿から、仲間へパスを出したり、仲間へ励ましや称賛の言葉掛けが増えたりするなど、仲間を意識した姿に変化したように感じる。
なぜ3対3なのか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボールに接触する回数を増やしたい。 ○ 意図的に動かないといけない環境を設定した。 ○ コートの広さ。(バドミントンコート)

(2) 【授業Ⅱ：各部会の授業（中学部）】 古小路 和隆 教諭

質問点	回答
本物のバレーボールを生徒たちには見せたのか。	オリエンテーション時に試合の動画を見せた。教師陣で、実際に生徒前で行い、見せてもよかったと感じる。
通常のバレーボールのルールを理解しているのか？	オリエンテーションで、審判の方法も含め、最低限のルールの確認は行った。
今後の展開や課題の改善は考えているのか。	ルールは大きく変えることなく、現在のルールを基本として行っていく。キャッチ、レシーブに関してはどちらでもよいと指示を出している。
バレーボールの単元を通して、はじめと現在で生徒たちが変化したところはあるか。	はじめは、その場から動くことがほとんどなかったが、ボールを追いかけてチームみんなでパスを繋ぐことができるようになった。生徒同士の言葉掛けからも成長を感じることができた。
振り返り時に、赤チームの司会は生徒一人では難しかったのか。	実態的に難しかったため、教師がフォローをしながら振り返りを行うようにしている。
バレーボールの授業のウォーミングアップでリズムジャンプを取り入れた意図はあるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ① 運動量を確保するため。 ② バレーボールで使う動き（レシーブ、審判）を取り入れて、基本動作の習得や審判の動きに繋げるため。

3 指導講評

【指導助言者】日本体育大学 体育学部 村井 敬太郎 准教授

■ 全体を通して

- ・ 柔らかい中にもメリハリがあり、楽しくなるバレーボールの授業であった。
- ・ ニュースポーツのような印象をもった。今後も続けてほしい。
- ・ スポーツを題材にすると、生徒の実態をふまえながら、上手に加工することができていたように感じる。

■ 授業Ⅰ：高等部

- ・ 生徒たち自身でやる!という意識を授業の初めから終わりまで感じた。道具や環境の準備など教師が準備したものに取り組むだけではなく、生徒たち自身で学習を作るとはとても大切である。
- ・ 教師の説明が長く感じた。生徒たちは「動きたい」気持ちを持っている。端的に説明することも大切である。
- ・ 作戦タイムで結論を出すのに子供たちは時間がかかるため、意見を丁寧に聞くためにも、もう少し時間を取ってもよかったかもしれない。
- ・ 生徒たちにモデルとなってもらうことで、自ら考え、自分もやってみたい。という気持ちを持たせることができるかもしれない。
- ・ 単元の中で、生徒の様子をいくつかエピソード(動き、発言など)を拾いながら記録をしておくことで、生徒の変容がわかり、評価につなげることができる。

■ 授業Ⅱ：中学部

- ・ はじめの礼から終わりの礼まで、1つ1つの活動に思考する場面を入れてもよい(指先まで伸びているか、かかとをそろえているか)。
- ・ 準備体操時の深い伸脚は、脚を開いたまま入れ替えることができているかどうか見てほしい。教師が見本を見せ、どうすれば教師と同じ動きができるのかなど、そのようなところから思考していけるようにすることが、バレーボールでの思考にも繋がっていくと感じる。
- ・ 授業者の反省で、設定している目標をあまり変えないとのことであったが、適切であると感じる。毎時間変えるより、目標を達成する意義を感じ、子供たちも思考・判断・表現できるようになると感じる。
- ・ 振り返り時に、「できた」「できていない」の評価の真ん中を選択する生徒がいたが、教師がその意見をしっかり反映していたのはとてもよかった。5段階評価にして、「どちらでもない」の項目を作ってもよい。

4 ワークショップ型授業研究会まとめ

(1) 授業 I : 高等部

■ Aグループ

良かった点

- ・ 子どもたちが動画を見て客観視することができ、思考しやすい工夫がされていた。
- ・ 生徒のモチベーションをあげる言葉掛けができていた。
- ・ ベストセッターゾーンはやり方が分かりだしたら使えるようになっていた。
- ・ ゲームを見ている生徒やコート内の生徒の声掛けが良かった。生徒たち同士の言葉掛けが良かった。

改善点

- ・ スポーツを支える視点での生徒の参加の仕方。
- ・ 特別ルールの得点を T2、T3 が数えるとスムーズだったのではないか。

■ Bグループ

良かった点

- ・ 教師のやる気が生徒に伝わり、活気のある授業であった。
- ・ 自分の考えや意見を出しやすい雰囲気であった。
- ・ 学習内容系統表を活用することで段階(実態)に応じた評価に繋がられる。
- ・ 思考ツールにより、複数の情報を一目で把握しやすい工夫になっていた。

改善点

- ・ 審判等への指導(ラインズマンの立ち位置)
- ・ 高等部の思考ツール「チームで工夫すること」の部分が、一段階具体性があがるとより課題解決に繋がりがやすくなる感じた。

■ Cグループ

良かった点

- ・ 失敗しても大丈夫だという雰囲気であった。(楽しい)
- ・ ICT 機器とアナログ教材の使い分けができていた。
- ・ 振り返りでは、カードやタブレット端末で内容が明確になっていて生徒が主体的に参加できていた。
- ・ 能力の高い生徒は自分で判断し、キャッチするのかパスではじくのかを選択していた。

改善点

- ・ チャレンジの加点がいつされていたのか分からなかった(生徒たちはわかっていたのか)。課題として取り組んだことは明確にしても良いと思った。
- ・ 生徒にポジショニングやフォーメーションを選択した理由を聞く場面を作る。

■ Dグループ

良かった点

- ・ キャプテンが良くまとめていた。友達への聞き方も上手だった。
- ・ 今日の課題やどういう時に2点になるのか動画で説明があったので、作戦やどういう動きをすればよいのか考えられているようであった。
- ・ 考えて前に走ったり自分のポジションに戻ったりしていた。
- ・ ポジションカードで子どもたちはイメージしながら考えることができていた。メリット、デメリットがあったのも話の幅が広がったように思う。

改善点

- ・ ポジションをチームで話合う場面で、「なぜこれを選んだのか」という問いを与えると、思考、判断、表現の場が増えると思った。
- ・ ルールの追加に関しては、教師側が決めるのではなく、生徒に考えさせる。

■ Eグループ

良かった点

- ・ タブレット端末を活用し、全員で評価していたのがよかった（難しい子も教えてもらいながら自己評価していた）。
- ・ ポジショニングを決める際、選択肢のカードとチームの課題を照らし合わせて決定していた。どのカードが達成するために有効なのかよく考えていた。
- ・ 生徒同士でベストセッターゾーンへ促すような言葉掛けがあり、ルールをよく理解してゲームに臨んでいた。
- ・ 自チームだけでなく、相手チームにも声を掛ける場面が多くみられ、みんなで楽しむ雰囲気が素晴らしかった。

改善点

- ・ ルールの工夫があり、追加得点されていたが、得点の確認をするのはT2、T3の方が良かったように感じた。
- ・ 「楽しい」だけでなく、何を得たのか理解しているのか。→本当のバレーボールにつなげる。こんな場面で使う等あれば良かった。

(2) 授業Ⅱ：中学部

■ Aグループ

良かった点

- ・ サポート教材を最後に活用しており、次の目標を立てやすいと思った。
- ・ 課題発見のための手立てが工夫されていた(動画、練習内容を選べる)。
- ・ 学習ファイルを見ながら自分たちで円陣等確認し、練習できていた。
- ・ 目標の選択肢が実態に応じて分かりやすい言葉になっていてよかった。
- ・ ゲームの反省をもとに、自分たちで練習の選択ができていた。

■ Bグループ

良かった点

- ・ 生徒主体の活動がしっかりできていた。
- ・ チーム目標の確認で、一人一人に目標を読ませながら確認していた点が良かった。
- ・ 思考ツールの活用によって自己の状態に応じた技能の向上が見込まれる。
- ・ 生徒の実態把握ができていたのが伝わった。言葉掛けが分かりやすかった。

改善点

- ・ ゲームであまり得点が入らない中、ローテーションがあまり進まないチームもあった。1点ずつローテーションをするなどの、ゲームのテンポを上げるような方法を考えると良かった。
- ・ 課題発見につながりやすい場やルールの設定があると良かった。

■ Cグループ

良かった点

- ・ 「体育館に入室してからの動き」→準備を「考えて」「協力して」行っていた。
- ・ 生徒がルールをよく理解していること。理解が難しそうな生徒に言葉掛けをしていたこと。
- ・ 反省の時に「できた」、「できなかった」だけでなく、真ん中を選んだことが良かった。
- ・ 相手への気遣いが見られた。ネット型、対戦型だからこそ素晴らしい人間性が見えると感じた。

改善点

- ・ ローテーションする機会が少ないチームがあった。→何点か取ったらローテーションするようにしても良かった。
- ・ 目標が多いチームがあった。

■ Dグループ

良かった点

- ・ 各チーム一人ずついる職員が生徒の意見を大切にしていた。
- ・ 生徒の授業中の動き、メリハリなど毎回の授業の積み重ねの大切さを改めて感じる事ができた。
- ・ 目標ボード上で「できた」、「できなかった」に話し合っ分けることで次の課題が明確になり、そのための練習も自分たちで考えることができていた。
- ・ チーム全員でボードを確認して練習のヒントを得ていた。

改善点

- ・ リズムジャンプの中にスパイクジャンプのステップを入れても良かったと感じた。
- ・ 全員にボールが回らずに返球し、相手に得点が入った時、先生がすぐに説明していたが「なぜ」や「この中のどれかできていなかった?」と問いかけても良かった。

■ Eグループ

良かった点

- ・ ホワイトボード等が使われ、教師と相談しながら目標を設定することができていた。
- ・ 思考力、判断力サポートツールが分かりやすく、生徒がしっかり活用できていた。
- ・ 練習ボードを見て、自分たちの課題解決に向けて必要な練習はどれか、チームで決めていく姿が素晴らしかった。
- ・ ルールが工夫されていて、失敗が少なくゲームが続けられる。

改善点

- ・ 目標や課題を選んだ理由を考えて発言できると良かった。
- ・ 失敗が少なく、課題を見付けにくい。→難しい課題も取り入れてみても良いのではないかと感じた。